

日高山脈の国立公園化と幌尻岳トイレ問題

高橋 健（日高山脈ファンクラブ事務局長）

■日高山脈国立公園化という報道や町広報

（日高報知新聞 2020 年 8 月 15 日記事より）

『日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向け、環境省は国立公園の指定を 3 年後の 2023 年 8 月ごろをめどに作業を進めていることが分かった。1981 年 10 月に道管理の国定公園に指定された日高山脈襟裳国定公園について、環境省は 2010 年、同公園を含む日高山脈周辺を「国立公園の新規指定」または「国定公園の拡張」の対象候補地を選んでいいる。同省は、16 年度～18 年度まで 3 カ年かけ、日高山脈周辺の自然環境や利活用方法などを調査。この結果、同公園は傑出した地形地質や自然環境により国立公園の資質があると判断し、国立公園化の方針を決定している。19 年度以降は、国立公園化に向け、具体的な国立公園の区域、特別保護地区など地種区分、利用施設計画などを示した「公園計画素案（案）」を作成している段階だ。23 年 8 月ごろの国立公園指定予定は、様似町が環境省に確認し、町議会の所管委員会で報告している。同省北海道地方環境事務所を中心に策定している公園計画素案（案）は、まだ、日高、十勝の公園関係市町村に提案（意見照会）していない段階。新型コロナウイルス感染症対策として、計画策定担当者らは現在も在宅勤務による作業などが続き、計画作成はやや遅れている状況。「公園計画素案を市町村に示す時期は年内になるか、それ以降かはまだ決まっていない」（道地方環境事務所）と話している。公園計画素案は、各関係市町村への意見照会で必要に応じて環境省の協力を得ながら、地権者などとの協議を実施。素案区域で地権者の同意が得られない場合は、拒否権は各市町村にあり、国立公園の区域に含めない。その後、パブリックコメントを通して環境省案を完成させ、審議会に諮問し、官報告示で国立公園の指定となる。』

（広報さまに 令和 3 年 1 月号記事より）

『現在、環境省では町の一部を含む日高山脈襟裳国定公園区域及び周辺地域を、最速で令和 3 年度中にも国立公園として指定する動きが進められています。この間、国立公園化に至った経緯や今後のスケジュールなど、現時点で明らかになっていることについてご紹介いたします。

日高山脈襟裳国定公園は、昭和 56 年、当時の北海道立襟裳自然公園から国定公園に指定されました。現在の日高山脈襟裳国定公園エリアは、日高山脈を東西にまたぐ市町村（日高管内 7 町および十勝管内 1 市 4 町 1 村）内で、総面積は 103,447 ヘクタールにおよび、日本国内では最大面積の国定公園です。

環境省は、平成 22 年に全国の国立公園や国定公園を対象に総点検事業を実施し、その結果、日高山脈襟裳地域については国立公園指定の候補地として抽出されました。環境省は平成 28 年から自然環境調査に着手し、その結果、当該地域には国立公園としてふさわしい景観要素が複数分布していることが確認されています。

◆日高山脈襟裳国定公園及び周辺地域の景観要素

◇地形・地質 道内最大の大起伏山地、道内唯一の典型的な氷河地形、地表に露出したマントル由来の地質（世界ジオパーク）

◇植物相の特徴 道内で生育が確認されている種の約 6 割シェア、道内最多の山岳国立公園での純日本固有種数

◇動物相の特徴 哺乳類・鳥類は道内生息種数の約 50%シェア

◇残された原始的な自然環境 日本最大の原生流域(森林伐採や砂防ダム等の人工物が設置されていない地域)面積を持つ。

環境省では、これらの調査結果や地域の要望等を踏まえ、令和元年度に国立公園化に関する方針を決定しています。また、既存国定公園の区域外にも景観要素が分布しているため、これらを面的に保全する観点から、既存国定公園より区域を拡大して国立公園を指定することを検討しています。

◆今後の流れ

現在、環境省では公園計画の素案(具体的な公園の区域・地種区分・利用施設計画等)を作成し、国機関や北海道庁と協議しているところです。この同意が得られたあと、関係市町村との協議を実施することになっています。

今後、環境省より関係市町村へ公園計画素案が示された時点で、町主催の地元地権者向け説明会等の開催や、町担当者が事前に地権者へ意見聴取に伺う方向で考えています。

◇今後のスケジュール

- ・令和3年2月以降 環境省から市町村へ公園計画素案の意見照会
説明会の開催や地権者との協議
- ・令和3年10月頃 パブリックコメント募集
- ・令和4年3月末 国立公園化の指定

※今後のスケジュールについては、各協議手続きが順調に完了した場合の最速の想定であり、協議状況により変更になる可能性があります。

◆国立公園化のメリット

◇メリット

- ・日高山脈襟裳周辺の貴重な自然が保護され、未来に継承される。
- ・国立公園は国が認める「優れた自然景観を持つ地域」のブランドであり、質の高い自然環境体験を目的とした公園利用者の増加が期待される。
- ・環境省主導の総合型協議会を設置し、関係機関の協力のもと、国立公園を軸とした地域の魅力増進や課題解決を図る。
- ・国立公園管理の専門職(レンジャー)の現地配置や、環境省直轄事業による施設整備(登山道、ビジターセンターなど)が行われる可能性がある。

◇デメリット

- ・国立公園内で開発行為(工作物の新築・増築、木材の伐採、鉱物・土石の採取など)を行う際は、自然公園法に基づき国定公園と同様の規制がかかり、許可申請や届出が必要となる場合がある。(場合によって、産業等への影響が想定される。)

◆地権者向け説明会

令和3年以降、環境省より国立公園の公園計画素案が提示されましたら、町主催の地元地権者向け説明会の開催を予定しています。日程等が決まりましたら、文書等でお知らせいたします。』

日高山脈の国立公園化は、当会の悲願であったが、手放しで喜ぶよりも不安の方が大きくなった。協力関係にあった平取町山岳会(以下「山岳会」)が意見の相違から日高町在住者の山岳会員全員を除名するという事態もあり、国立公園化に伴いトイレ問題はどうすべきなのか、当会の結成目的と、調査に基づく提言と改善策、幌尻岳フォーラム結果を今一度振り返り、幌尻岳を取り巻くトイレ問題を考えてみたい。

■当会の結成と活動

当会は、日高山脈って本当に日本の残された秘境なのだろうか？「登山者の増加でいろいろな自然環境への影響が見られるようになってきた日高山脈の自然を登山者の立場で、その自然を次の世代に引き継いでいきたい。そのために、この自然を調査し、学習して、保全していこう」と今から20年前の2000年6月に結成された。

当時は日本百名山ブームにより幌尻岳の登山者が急増していた時期であったが、どのくらいの登山者がいるのか、登山者の影響はあるのか、と言う点について、国立公園の管理者である北海道庁、土地の所有者である林野庁、どこも把握してなかった。

そこで、研究者の協力とさまざまな助成金を得て、幌尻岳額平ルートへの入山者カウンターの設置、幌尻山荘（以下「山荘」）周辺の水質調査、2カ年で延べ500人にも及ぶ山荘利用者へのアンケート調査、北海道大学大学院生による山荘周辺の土壌調査を行うとともに、清掃登山も毎年、実施した。さらに道外の事例や広く意見を聞くために04年、05年に幌尻岳フォーラムを開催した。

当会調査およびフォーラムでの検討結果を踏まえて、提言書【「幌尻岳」の山岳環境保全と持続可能な利用方法について】をまとめ、05年2月に関係機関・団体に配布し、改善策を促した。

■当会調査による幌尻岳の現状および問題点

- ① 寒冷積雪地および登山ルートの条件（渡渉等）により、登山期間が夏季（7月～9月）に限定され、とくに海の日からお盆までの期間に登山者が集中している（夏季3ヵ月間の登山者2,500人、ピーク時の1日の登山者数130人）。
- ② 山荘周辺は、国立公園第2種特別地域及び日高中央部森林生態系保護地域保存利用地区指定区域であるが、夏季のピーク時には山荘の定員（50人）を超える利用があり、山荘に泊まらない登山者の幕営等により、オオバコやセイヨウタンポポなど平地植物が繁茂している。
- ③ 日高山脈襟裳国立公園の稜線付近では幕営が登山者の判断に任せられている。幕営等により高山植物群落の裸地化が進み、また平地植物の進入が危惧される。なお幌尻岳周辺カール、稜線は国立公園特別保護地区および日高中央部森林生態系保護地域保存地区に指定されている。
- ④ 登山口や水場・稜線にトイレがない。そのため路肩や樹林帯、草地に排泄跡が見られ、視覚的によくない。調査に基づき、野外排泄が、幌尻岳全体で小便が4,000ℓ、大便が90kg想定され、そのうち、登山口では小便が4割にあたる1,600ℓ、大便が36kg、それぞれ野外排泄されていると思われるが、小便の9割、大便の7割は携帯トイレを使用しない未処理の状態である。今後は高山植物の富栄養化や水質への影響が危惧される。
- ⑤ 山荘トイレは地下浸透式で、糞便は山荘周辺に埋立処理をしている。その結果、土壌汚染が垂直方向に進行していることが、当会調査の共同調査者であった北海道大学大学院生の調査によって明らかになっている。また山荘周辺水質へも微量ながら影響が出ている。
- ⑥ 登山口までの公共交通機関が未整備なことから、登山者の車両による駐車渋滞がおきている。緊急車両の通行に支障をきたす恐れが高い状況にある。
- ⑦ 渡渉など日本百名山のなかでは、もっとも登山技術を必要とするが、登山技術を習得していない、また無理な日程による事故があとを絶たない状況である。

■当会作成「幌尻岳」山岳環境保全と持続可能な利用についての提言

- ① 入山規制は必要であるとの認識であるが、その実施にあたっては関係機関、団体、地域住民、登山者等関係各位の検討組織を設立すること。
- ② 山岳環境保全と持続可能な利用を促進するために基礎的な調査および情報収集（入山者数の把握や利用状況など）が必要不可欠であり、管理関係機関においてその適切な調査および情報収集をすること。
- ③ 地元自治体単独での山岳環境整備は好ましい状況とは言えず、管理関係機関および受益者による負担をすすめること。
- ④ 未組織登山者への啓発のため旅行会社・登山用品店等を通じてマナーガイドの配布やホームページを通じての情報発信を行うとともに、登山教育施設設置の可能性を検討すること。
- ⑤ ツアーおよびグループ登山は、単独登山者よりも登山環境への負荷や他の山荘利用者へ影響を及ぼす可能性が高いことから、20人以下の少人数とされるよう関係者の自主努力を促すこと。
- ⑥ 登山口だけでもトイレ設置が必要との認識から、その設置および維持管理について関係者間で協議すること。
- ⑦ 山荘トイレ排泄物運搬は、ヘリと人力を併用して実施し、今後への検討材料とすること。

■提言後の関係機関と当会による改善策

提言を受けて、山荘を管理する山岳会が山荘管理人を雇用し完全予約制を実施することにより実質的な利用規制が図られ、現在に至っている。また、平取町役場が幌尻山荘トイレ及び屋外に貯留式トイレを2基設置し、林野庁が山荘屋外にバイオトイレ1基、その電源となる小型水力発電機を平取町役場が設置した。さらに林野庁管轄林道の利用基準見直しに伴い、額平林道の一般車両通行禁止、代替措置として平取町役場によるシャトルバス運行が運行されている。

当会では、この提言の実現に向け、自ら努力することを提言書に明記し、05年から14年までの10年間で、延356名のボランティアの協力により、約4,226kgもの排泄物を担ぎ下ろした。しかし当会が山荘排泄物人力運搬を続けていくことはボランティア運搬を固定化させる、山岳環境保全の対価を受益者に負担してもらう方法が検討されないことに繋がることから、10年目の区切りとなる14年をもって当会主催の山荘排泄物人力運搬事業は終了する決断をした。15年からは19年までは平取町役場が主催し、山岳会、当会が協力して、幌尻山荘排泄物人力運搬事業を継続して実施してきた。

また06年に、当会で幌尻岳額平ルート駐車場（現在のシャトルバス終点）に貯留式簡易トイレ2基を設置して汚染物質が自然界に流出しないようにした。このトイレは15年春に大雪で倒壊し、現在は平取町役場が簡易トイレを設置し管理している。

20年近く前から私は、問題解決のためには受益者負担、山荘利用料を値上げするしかないと思っている。現在の1,500円（21年度から2,000円に値上げされるようである）を3,000円に値上げすることにより、排泄物運搬用のヘリコプター代（約300万円）を捻出することが出来る。年1回のヘリコプター運航が可能になれば、現在は、管理人や山岳会員が人力運搬している山荘やバイオトイレ補修資材を往路で運搬し、復路で排泄物を運搬出来る。しかしヘリコプターでの運搬処理は検討もされることがなく現在に至っている。

■幌尻岳の持続可能な利用・整備方針を市民の手で・・・

07年に当会が主催し、北海道日高支庁 日高北部森林管理署 日高町 平取町 新冠町 日高町山岳会 平取町山岳会 新冠山岳会 社団法人日本山岳会北海道支部 北海道山岳連盟 北海道道央地区勤労者山岳連盟 山のトイレを考える会 北海道山岳ガイド協会 NPO法人北海道アウトドア協会（いずれも当時）の後援をいただき、「幌尻岳の持続可能な利用・整備方針を市民の手でつくろう」をテーマに、当会、日高北部森林管理署、山岳会、新冠山岳会から取り組みを報告し、「大雪山・旭岳での利用調整の取り組み」について大雪山自然学校の荒井一洋さんから講演いただき、北海道大学の愛甲哲也さんからROSについて解説をいただいた。その後に参加者「幌尻岳の魅力と持続可能で安全な利用方法」について議論を深めた。トイレ問題に係る意見は以下のとおり・・・

「登山はもともと自由であるが、し尿問題など、その環境を使いすぎてきたため、規制が求められている。自由と規制をどう折り合いをつけていくかが課題である。法律による規制が必要か。山荘利用料を値上げすることによって利用者制限をはかるという方法もあるだろう。」

「バイオトイレが設置されても、設置数は1基のため問題解決にはならない。当会による担ぎ下ろしの継続が必要であろう。」

「山荘以外の場所では、登山口にはトイレが必要であろう。」

全体会の結果は以下のとおり。

- ①永続的利用方法のため日高山脈全体のランドデザインを考えるとときが来た。
- ②山荘は平取町所有なのだから、町民の協力は欠かせない。そのための意識を役場が率先して盛り上げる必要がある。登山者のもたらす平取町への経済的波及効果（温泉・ハイヤー・商店等）があるはず。地元は登山者が利用しやすいお店づくり、たとえばキャンプ用ガスの販売などをすべき。登山者が気持ちよく幌尻岳に登れるシステムをつくらないと平取町自体のイメージが低下しかねない。
- ③登山者に対しては、地元の人とのふれあいができる余裕のある登山日程を計画するよう呼びかける。
- ④山荘利用マナーが悪い原因として、山荘の重要性が利用者に理解されていないことがあげられる。幌尻岳登山ルートにおける山荘の位置や歴史、森林管理署、町役場や山岳会による管理、事故史などを利用者が知ることにより、山荘への関心や愛着が生まれ、山荘の使い方が変わる。町役場HPに掲載、配布、掲示し周知してほしい。
- ⑤山荘管理人の業務は、山荘維持だけでなく、周辺の環境整備や登山教育、遭難対策など幌尻岳登山に係るあらゆる内容が必要とされ、実際に担っている。その人件費は上記業務の対価でなくてはならない。山荘使用料歳入を公開すれば、おのずと不足分が公になり、使用料を値上げしやすくなるし、町役場の負担を軽減することも可能である。将来にわたって永続的に山荘管理人になる成り手も出てくるであろう。
- ⑥山岳会員の高齢化等により地元だけで山荘を含む山域管理が難しいということであれば、登山者など地域外住民を巻き込んだ新たな管理組織（ボランティア）をつくっていくという方法も考えられる。

このフォーラムで討議され、まとめたROSマトリックスに基づく日高山脈におけるゾーンごとの整備の基本方針と幌尻岳登山道理想像区分案は次ページのとおり。

あくまで理想像であるが、今から13年前にすでに幌尻岳では携帯トイレブースを設置したいという結果になっていた。

2007年協議結果 R0Sマトリックス 日高山脈における各ゾーンごとの整備の基本方針と梶尻岳登山道理想像区分案

ゾーン			ゾーン1	ゾーン2	ゾーン3	ゾーン4	ゾーン5	ゾーン6
整備の水準による区分			整備区域	準整備区域	自然区域	準保全区域	保全区域	原生区域
想定される主な利用者			日帰り観光客	ハイカー・自然愛好者の初心者	自然愛好者	初級の登山者	中級の登山者	上級の登山者
施設整備水準	歩道		舗装	砂利、石敷き、締まった土	土・歩行に支障がない	根・石・ぬかるみ等で気をつけて歩く必要有	岩地、ガレ地、などらかな沢含む	沢、岩壁
			革靴・ハイヒール可能	スニーカー・ウォーキングシューズが適	軽登山靴適、スニーカー可	軽登山靴・登山靴適	登山靴 沢靴適	沢靴適
			手すり・階段完備	危険な箇所到手すり・階段	施設なし	両側から草木かかる	藪こぎ 渡渉	渡渉 通行
	橋		永久橋	固定橋	移設可能橋	丸太、板	なし	なし
	標識	案内標識	各入口の設置	主要入口の設置	主要入口の設置	主要入口の設置	主要入口の設置	設置しない
		道しるべ	分岐点・一定距離ごとに設置	分岐点・一定距離ごとに設置	分岐点に設置	分岐点に設置	主要分岐点に設置	設置しない
		解説標識	優れた景観や特徴な動植物生息地に設置	優れた景観や特徴な動植物生息地に設置	優れた景観や特徴な動植物生息地に設置	設置しない	設置しない	設置しない
		注意標識	各入口設置 危険な箇所すべてに設置	主要入口設置 危険な箇所すべてに設置	主要入口設置 危険な箇所すべてに設置	危険な箇所に設置	特に危険な箇所に設置	設置しない
	トイレ		男女別水洗様式、常設建造物、ユニバーサルデザイン	必要に応じて男女別水洗洋式か汲み取り式	汲み取り、貯留式、必要に応じてバイオトイレ	携帯トイレブース設置。必要に応じて貯留式、バイオトイレ	必要に応じて携帯トイレブースの設置	設置しない
	休憩施設		展望所 あずまや	なし	なし	なし	なし	なし
	園地		必要に応じて設置	必要に応じて設置	必要に応じて設置	なし	なし	なし
	ベンチ		一定距離で設置	必要に応じて設置	必要に応じて設置	なし	なし	なし
	ユニバーサルデザイン		全施設	必要に応じて設置	なし	なし	なし	なし
自然環境の水準	野生動物との出会い	まれに野鳥、小型哺乳類	野鳥、小型哺乳類 大型哺乳類との遭遇の可能性あり	野鳥、小型哺乳類 大型哺乳類との遭遇の可能性あり	大型哺乳類との遭遇の可能性大	大型哺乳類との遭遇の可能性大	大型哺乳類との遭遇の可能性大	
	自然らしさ	人工林、択伐天然林	人工林、択伐天然林	人工林、択伐天然林	択伐天然林	天然林	天然林	
	音	自動車の音、造材の音、ダム放流の音	自動車の音、造材の音、ダム放流の音	造材の音、ダム放流の音	自然音のみ	自然音のみ	自然音のみ	
社会的環境の水準	人との出会い	しばしば人に出会う	しばしば人に出会う	1時間に4～5回、人に出会う	まれに1日に4～5回程度人に出会う	まれに1日に4～5回程度人に出会う	1日歩いてもほとんど人に会わない	
	アクセス	車で到達可能	基本的に徒歩で到達可能	徒歩で到達	徒歩でのみ到達可能	徒歩でのみ到達可能	徒歩でのみ到達可能	
管理水準	整備	毎年整備	毎年整備	毎年整備	数年おきで整備	必要に応じて整備	整備されていない	
	活動プログラム	まれにプログラムが行われる	まれにプログラムが行われる	まれに経験者向けプログラムが行われる	まれに経験者向けプログラムが行われる	まれに経験者向けプログラムが行われる	なし	
	情報提供	解説版	解説版	解説版	なし	なし	なし	
	安全対策	不定期の巡視	不定期の巡視	不定期の巡視	自己責任	自己責任	自己責任	
理想像に基づく梶尻岳各登山道区分案	チロロルート	—	北電ゲート～取水ダム	—	取水ダム～作業道終点	—	作業道終点～梶尻岳山頂～七つ沼カール	
	ヌカビラルート	—	—	—	仮ゲート（駐車場）～取水ダム	取水ダム～四の沢 梶尻山荘～梶尻岳山頂～七つ沼カール～中トツタ山荘下り分岐	四の沢～梶尻山荘 中トツタ山荘下り分岐～六の沢出合	
	新冠ルート	—	—	新冠ダム～ニイカッポロシリ山荘	—	ニイカッポロシリ山荘～梶尻岳山頂～七つ沼カール	—	

■山岳会による新たな排泄物運搬事業・・・山荘利用者による排泄物運搬

前述のとおり幌尻岳額平ルートにおける幌尻山荘排泄物運搬事業は、当会が初めて行い山岳会の協力を得て実施してきたが、19年に山岳会事務局から、「排泄物を小分けにして山荘利用者に運搬させたい」という提案があった。私はトイレを含めた山荘使用料を徴収しているわけだから、山荘利用者に排泄物を運搬させるのは本末転倒ではないかとその提案に対して反対した。山荘は、管理人の居ない無人避難小屋として林野庁が設置した。その後、平取町役場に管理が移管され、管理人配置、小型水力発電設備設置、バイオトイレ設置、屋外水道設備設置、緊急対応用衛星携帯電話設置、管理人による日々の清掃、予約制導入による混雑の回避など、無人小屋だった時代とは比べ物にならないほど利用環境は改善している。改善に伴い、使用料は当初の500円が1,000円に、1,500円に、さらに21年度は2,000円に値上げされるようである。平取町役場にその使用料が納入されている。

【平取町役場HP掲載内容】

<http://www.town.biratori.hokkaido.jp/wp-content/uploads/2015/03/2653c119075588379255ace14dd5dafd.pdf>

『幌尻山荘を利用される皆様へ 令和元年9月吉日 平取町山岳会』

登山愛好の皆様方には益々ご清祥のことお喜び申し上げます。

さて、早速ではありますが、私ども山岳会では、これから皆さんが目指す山荘におけるトイレでの排泄物の処理にあたって、毎年町職員や山岳会員による有志を募り排泄物を一斗缶に移し替えて額平川の渡渉を繰り返しながら担ぎ降ろすという作業を行っています。

この作業については、これから皆様方も額平川の渡渉を経験されてご理解いただけたと思いますが、相当の労力を要します。

私どもとしても、この避けて通れぬ問題について日頃より適切な方法は何かを検討しているところではありますが、経費面も含め早期に解決する方法も少なく、しばらくはこの方法での作業を継続することになるかと思えます。

しかし当町も少子高齢化が進み、気力・体力の充実したこの作業を行える有志の確保が困難な状況となり、今後顕著になると思われます。

もちろん、今後とも幌尻山荘を経て幌尻岳の登頂を目指す登山者が絶えない限り、この問題には付き合っていかなければならず、そう遠くない将来には、携帯トイレの使用などを推奨し、「自分のものは自分で運ぶ」ことが理想ですが、まだまだ過渡期にあり、当面は「他人のものを誰かが運ぶ」状況になろうかと思われます。

ただ、現実問題としてこの一斗缶による担ぎ降ろし作業は負担が多く、かつ当面は実施の継続が必要ななか、今般少しでも登山者の皆様にご協力を賜りながら、担ぎ降ろしの負担を軽減することと減らすことは出来ないものかと思ひ至った次第であります。もちろん「他人の排泄物を誰が好んで運ぶものか」ということは当然の考えであります。全くもってその通りだと思います。私どもも積極的に他人様の排泄物を運んでいるわけではありません。

しかしながら、現実には他人の排泄物を運んでいるなかで、本当に100人の登山者がいれば100人が他人の排泄物を運ばないものなのか。なかには一斗缶は無理だけど少くなら協力してもいいという登山者もいるのではなかろうか。そのような着想により私ども山岳会では、「※平取町 町民税1%まちづくり事業」を活用し山荘を利用する登山者自らが他者のものも含めた排泄物の処理に協力いただけるものかを、下記の方法により実施しモニタリングすることとなりました。

※ 平取町 町民税1%まちづくり事業 とは・・・平取町では、町民税の1%に相当する額を住民が主体となって実施する地域コミュニティの活性化まちづくり活動に対して補助金

を交付し支援しています。

山岳会では令和元年度事業において山荘排泄物利用者運搬事業として山荘を利用する登山者により、山荘トイレの便槽に溜まった排泄物を担ぎ降ろす仕組みの構築およびモニタリングを行うものとして応募し採択を受けたことから、本事業による補助金を活用し、排泄物の運搬に必要な備品の購入等を行っております。

排泄物を漬け物用の厚手のビニール袋（厚さ0.06mm）に封入しビニールテープで封緘します。排泄物容量としては1.5リットル程度です。さらに「使用済みの携帯トイレや生ゴミなどフィールドで出たゴミを収納して持ち帰るための防水性と気密性に優れた」モンベル社のガベッジバックに包みます。

山荘への名残も惜しいなか、山荘の軒下よりバックを取り出していただき、ザックの傍らに登頂の思い出と併せて、ガベッジバックの上下バックルを利用して取り付けてください。

（以上、平取町役場HPより）

19年9月に上記事業のモニタリング事業が行われ、山荘宿泊者673名中12名参加、14個運搬にとどまった。事業参加率は2%となっていることから、この事業が理解を得ることの難しさを物語っている。

また、山岳会が「そう遠くない将来には、携帯トイレの使用などを推奨し、「自分のものは自分で運ぶ」ことが理想ですが、まだまだ過渡期にあり、当面は「他人のものを誰かが運ぶ」状況になろうかと思われます。」として、山荘利用者に他人の排泄物運搬を要請していますが、地元で排泄物運搬ができない状況になっているのであれば、他人の排泄物運搬の推進ではなく、自分の排泄物運搬、携帯トイレ使用をお願いすべき状況かと思うが・・・

山岳会では、19年度に幌尻山荘で携帯トイレの無償配布を予定していたが、使わない、途中で遺棄することを危惧して配布を実施しなかった。山岳会では、今後、供託金（500円を想定）を徴収して携帯トイレを配布し、麓での回収まで至った者には供託金と同額を返戻し、回収に至らない場合は200円を返戻するという方法を検討しているようである。

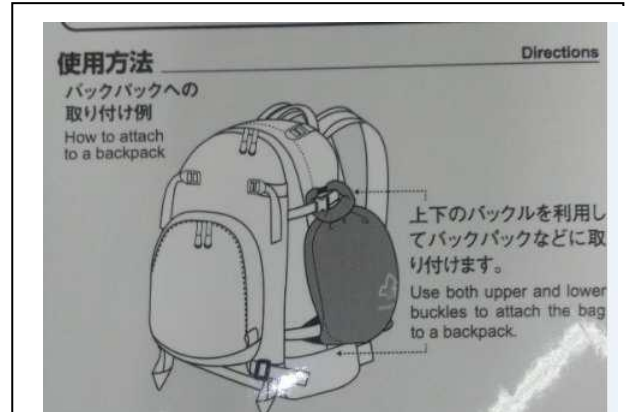
■新型コロナウイルス感染症対策の必要性

これからは、新型コロナウイルス感染症への対策が必要であろう。山荘トイレ利用者の中に感染者がいなくても限らない。排泄物から感染しないともいえない。自分の排泄物は自分で処理する、運搬する、という意識を加速度的に実践する必要があると思われる。『新型コロナウイルス感染症を踏まえた生活様式』ならぬ『新型コロナウイルス感染症を踏まえた新たな登山スタイル』の基本として携帯トイレの普及が必要不可欠だと思う。

■目先の経済効果よりも優先されるべき山岳環境保全

当会では03年当時、閉校予定であった平取町立豊糠小中学校を登山教育施設とされるよう、平取町役場・山岳会に提言していたが、単なる簡易宿泊施設「とよぬか山荘」、シャトルバス乗り場となってしまったのは残念である。簡易宿泊施設が出来たのは、当会調査によって夏季に一定程度の登山者がいることが把握され、その登山者の前後泊の需要があると見込めたからだ。

幌尻岳額平ルートでは、額平川沿いに山道を開削しようという動きが平取町にある。増



水によって登山が制限され、シャトルバスのお客が確保できないという営利的理由によるものだ。山岳会員と山岳ガイドらによって19年10月に新規登山ルートが調査されたが、調査中に滑落事故が発生し、新規ルートの開削が容易ではないことが裏付けられた。さらに現在の渡渉ルートの草刈りもままならない状況で、新たに尾根ルートを開削するとすれば、誰が維持管理するのか？ということも未解決である。

しかし経済優先で良いのか・・・日高山脈の魅力は、国立公園化されるほどの豊かな自然環境であり、沢登りを主とする整備されていないルート、豊かな動植物とのふれあい、登山者が少なく静かな登山が楽しめること、などを求めているのであって、日本アルプスのような便利なものを登山者が求めているとは思いたくない・・・。

持続可能な保全と利用を検討せずに、目の前の利便性を追求するということではなく、国立公園化される自然環境の優位性を日高山脈の山岳環境が持ち続けていること、標識もない登山道も整備されていない原始の山岳環境を求めて登山者が入山していること、原始の山岳環境を保全し、持続可能な利用方法を検討し実践していくことなど、日高山脈の持つ山岳環境を次世代に引き継いでいくことこそが現世代に課せられた責務であると思っている。

国立公園化に伴う公園計画の策定にあたっては、利用だけを前面に押し出した整備ではなく、日高山脈の持ち続けてきた優位性を保ち、持続可能な利用と保全が調和した内容であって欲しいと願っている。持続可能な利用と保全を続けていくことこそが、結果的には永続的に登山者を得ることになり、地域振興に繋がると思うのだが、皆様はどのように思われますか？

■現場の把握とさまざまな意見の討議と調整など環境省への期待

幌尻山荘を含む幌尻岳一帯は日高山脈襟裳国定公園に指定されている。国定公園の管理者は都道府県なので、幌尻岳一帯の公園管理者は北海道庁になるが、当会結成以来、北海道庁が真剣になって幌尻岳一帯の公園管理をしてきたとは到底思えない。

05年2月に北海道庁の出先機関である日高支庁（当時）に送付した提言書【「幌尻岳」の山岳環境保全と持続可能な利用方法について】に明記した「日高山脈襟裳国定公園の稜線付近では幕営が登山者の判断に任せられている」点について、14年に、北海道庁日高振興局日高山脈襟裳国定公園担当者に確認したところ、「日高山脈稜線には幕営指定地がないのだから幕営は出来ない。幕営はされていないものと認識している」との回答だった。

果たして現状はどうか？・・・稜線上やカール内には、幕営のため土地が開削され、高山植物帯が裸地化し、カール内においてはハイマツを切った焚き火跡が散見されている。現状を見ずして問題は無いと言い切る態度が悲しい。パンフレットに、天上の楽園【七つ沼カール】にキャンプと、堂々と書いている登山ツアーも散見される。

登山者個人、登山愛好団体が山岳環境の保全のために活動していくことは必要だが、一個人・一団体・一自治体それだけでは山岳環境の保全を図っていくことは難しい。

これから指定される国立公園では、日高山脈の山岳環境をどのようにしていきたいのか、と言う点を、国立公園管理者である環境省が率先して関係機関、団体、登山者を巻き込み、異なる意見を討議し合い、調整し、合意形成を図って実践されることを期待したい。

地図上に行政区域線は引かれているが、実際の山に境界が引かれているわけではない。各自治体や事業者が我田引水的なことをしては広大な日高山脈の山岳環境を保全することに繋がらない、山岳環境を次世代に引き継ぐことは出来ない、当会結成後20年間の活動を通して、そう感じている。